

# スマートシティ戦略から見る大阪 ~副首都認知度向上に向けて~

慶應義塾大学 橋口勝利研究会  
大阪副首都班

# 目次

1:提案

2:副首都化のネガティブ要素

3:副首都化のポジティブ要素

4:スマートシティ構想

1:スマートシティ化の内容

2:スマートシティの実践例(池田市)

3:副首都化との関連性

5:展望と予想

## 取材にご協力して下さった方々

- ・大阪府市副首都推進局 西山 様(6月19日)
- ・2025年日本国際博覧会協会 総務局 森 様(9月17日)
- ・大阪府スマートシティ戦略部 狩野 様(11月16日)
- ・大阪府池田市 伏見台コミュニティ 春山 様 (12月26日)

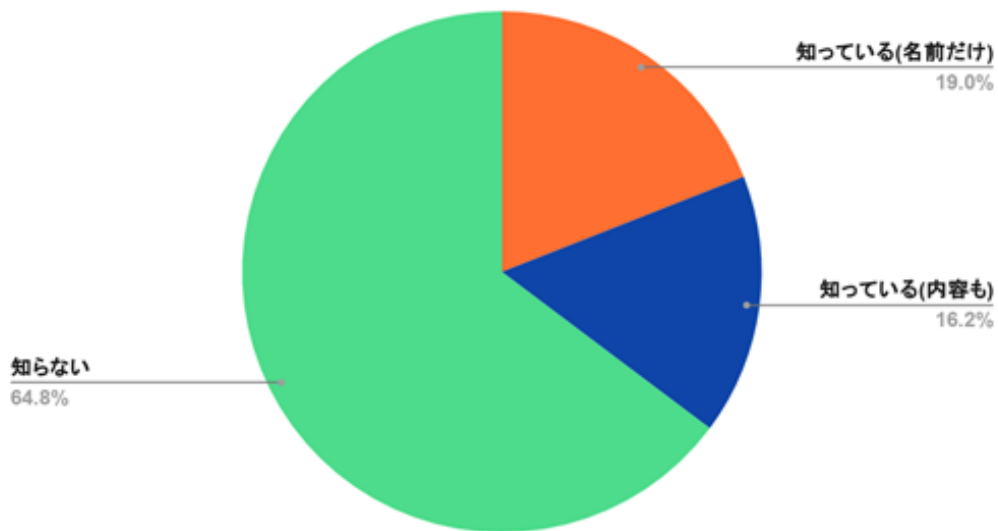
# 提案

慶應義塾大学の学生中心(240名)にアンケートを実施

➡ 関東での認知度の低さが判明…

全国的な「副首都大阪」の  
情報発信の必要性

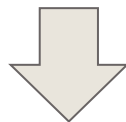
大阪副首都プロジェクトについて



# 提案

## 👉 大阪スマートシティ戦略への注力

- ・世界的な流れとして注目されている分野(先進国を筆頭に多くの国がスマートシティ化の推進に取り組んでいる)
- ・社会実装を大阪が先んじてやることによるアピール(日本における従来の実証実験型とは異なる新たな実例として)



スマートシティ化によって大阪という都市に注目を集めることで、副首都・大阪としてのイメージ定着に繋がる



# 目次

1:提案

2:副首都化のネガティブ要素

3:副首都化のポジティブ要素

4:スマートシティ構想

1:スマートシティ化の内容

2:スマートシティの実践例(池田市)

3:副首都化との関連性

5:展望と予想

# 副首都におけるネガティブ要素

---

①大阪の「支店経済化」が進んでいる。スタートアップの資金調達額が他の大都市に比べて極端に少ない。

②大阪府のGDPに占めるインバウンド需要の割合が全国平均よりもかなり高い。しかし現在、インバウンド需要が激減してしまっている。

# 副首都におけるネガティブ要素

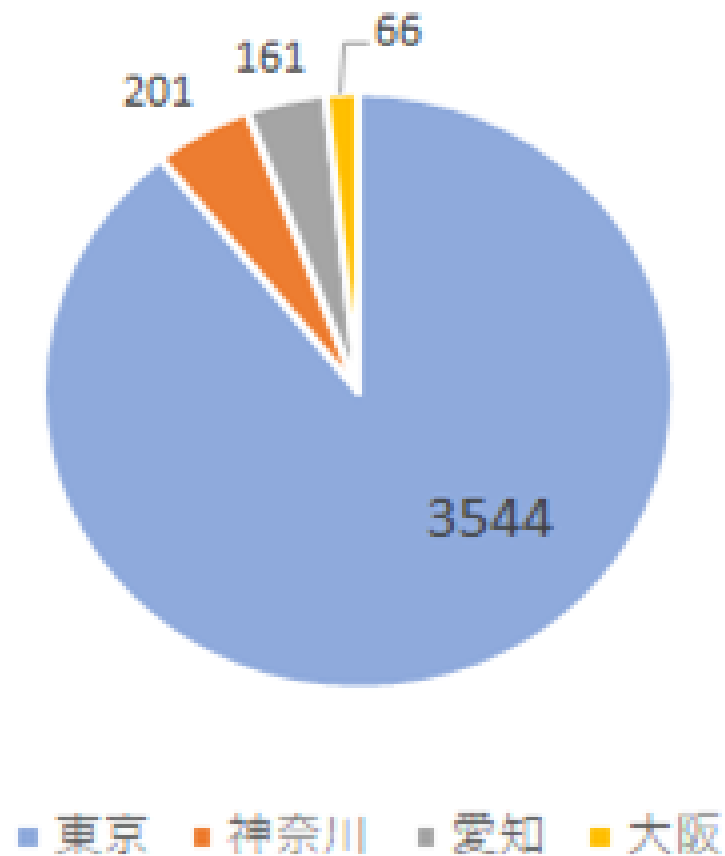
---

①大阪の「支店経済化」が進んでいる。スタートアップの資金調達額が他の大都市に比べて極端に少ない。

②大阪府のGDPに占めるインバウンド需要の割合が全国平均よりもかなり高い。しかし現在、インバウンド需要が激減してしまっている。



# スタートアップの資金調達額（億）



# 課題点その1

---

**いかにして大阪に本社を根付かせるか**

# 副首都におけるネガティブ要素

---

②大阪の「支店経済化」が進んでいる。スタートアップの資金調達額が他の大都市に比べて極端に少ない。

③大阪府のGDPに占めるインバウンド需要の割合が全国平均よりもかなり高い。しかし現在、インバウンド需要が激減してしまっている。

# 大阪府の名目GDPに占めるインバウンド需要の割合

---

**2.1%**

(全国平均 **0.9%**)



## 課題点その2

---

**インバウンド外の産業の育成**

# 課題の再掲

---

①いかにして大阪に本社を根付かせるか

②インバウンド外の産業の育成

# 目次

1:提案

2:副首都化のネガティブ要素

3:副首都化のポジティブ要素

4:スマートシティ構想

1:スマートシティ化の内容

2:スマートシティの実践例(池田市)

3:副首都化との関連性

5:展望と予想

# 副首都化におけるポジティブ要素

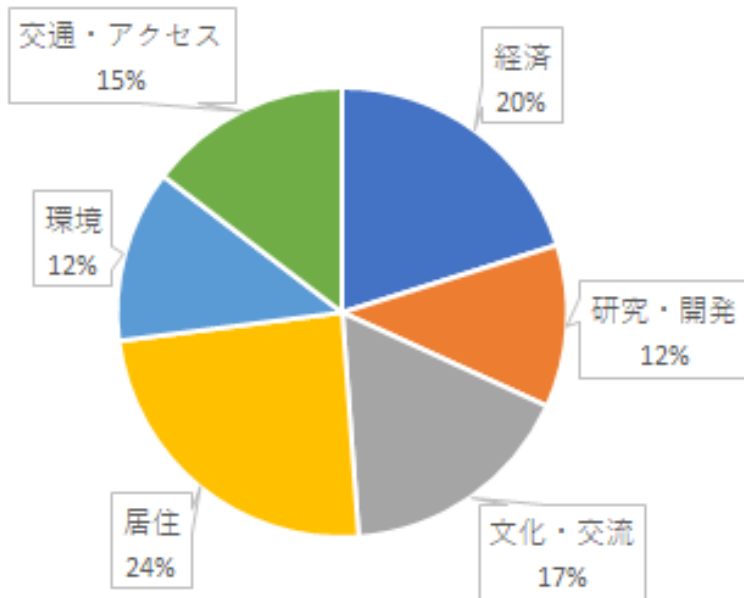
---

- ・国際競争力を高めることで、日本の成長を牽引
- ・東京一極集中というリスク低減
- ・アジアの主要都市として世界にアピール  
(万博やIR誘致でも注目を集められる)



# 東京の都市総合力評価

東京の構成比



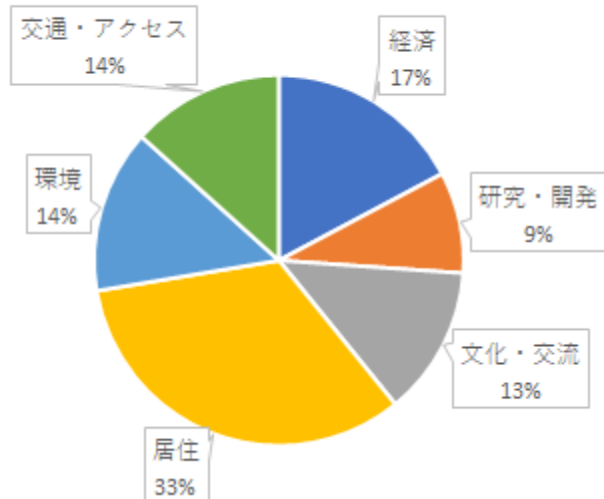
ランキング3位  
高い総合力  
バランス的

出典

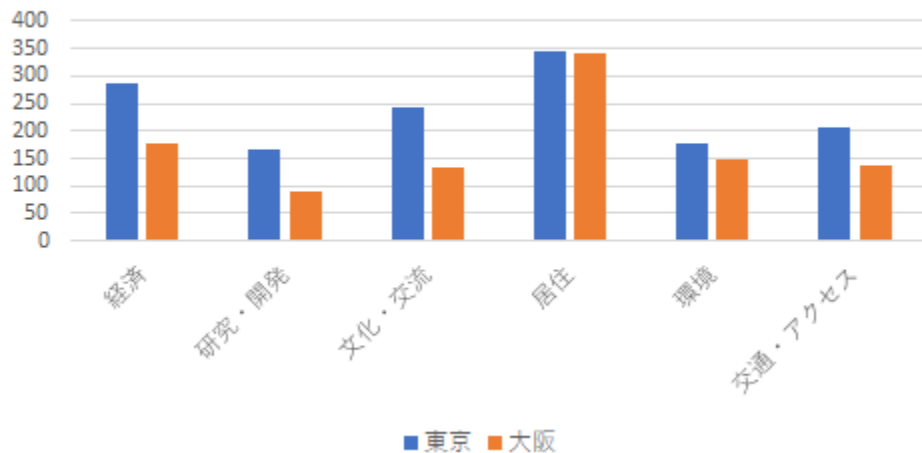
一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所  
「世界の都市総合力ランキング」

# 東京と大阪を比較、評価

大阪の構成比



東京と大阪の要素比較



研究・開発が低い割合を占める→力を入れて取り組んで認知度向上

# 目次

1:提案

2:副首都化のネガティブ要素

3:副首都化のポジティブ要素

4:スマートシティ構想

1:スマートシティ化の内容

2:スマートシティの実践例(池田市)

3:副首都化との関連性

5:展望と予想



# スマートシティ戦略

---

- ①スマートシティ化の内容
- ②スマートシティ実践例(池田市)成果と課題
- ③副首都化との関連性

# ①スマートシティ化の内容

概要：”先端技術を活用することで住民の生活の質を高め、住みやすい都市を実現”

## 3つのポリシー

- 1) 住民QoL(生活の質)の向上
- 2) 公民共同エコシステムの導入
- 3) 「技術実験」ではなく、「社会実装」



# 日本のスマートシティの進捗度

▶ スマートシティランキング 2020

・大阪、東京ともに

スマートシティの遅れが顕著

→ 大都市から実装はなかなか

難しいのではないかと？

2020年	2019年	都市	国・地域	格付け
1	1	シンガポール	シンガポール	AAA
2	8	ヘルシンキ	フィンランド	AA
3	2	チューリッヒ	スイス	AA
4	6	オークランド	ニュージーランド	AA
5	3	オスロ	ノルウェー	AA
6	5	コペンハーゲン	デンマーク	AA
7	4	ジュネーブ	スイス	AA
8	7	台北	台湾	A
9	11	アムステルダム	オランダ	A
10	38	ニューヨーク	アメリカ	A
79	62	東京	日本	CCC
80	63	大阪	日本	CCC

出典:IMD-SUTD Smart City Index Report

## ②スマートシティ戦略の実践例（大阪府池田市）

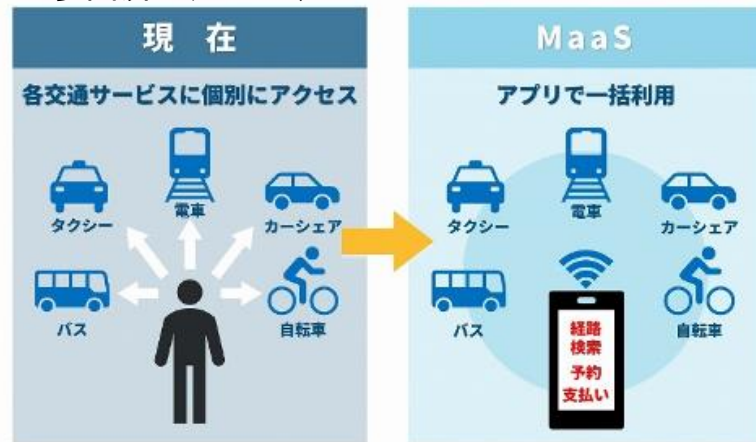
- 大阪スマートシティ化の**第1フェーズ**の一例（大阪パートナーズフォーラムに参画済み）として、池田市で、**Maas実証実験**が今月12月1日からスタート。

※Maas（マース：Mobility as a service）とは、「ICT（情報通信技術）を活用して人の移動をシームレス・円滑につなぐ」概念。フィンランド発祥で欧米中心に導入が進んでいる。

### ➤ 池田市の課題

高齢化と人口減少が進む池田市は、傾斜が多く、スーパーや病院、バス停等への移動負担大... (☹)

→ すでに実施済みの送迎サービス「らくらく送迎」に、IoT技術を付加することで、より便利に！

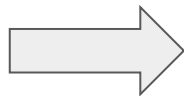




## ②スマートシティ戦略の実践例（大阪府池田市）

### メリット〇

- ・配車予約が電話+専用アプリ
- ・スマートバス停の設置（乗り場へ行くだけで配車依頼完了！）
- ・感知センサーの設置により、歩行者飛び出しを警告



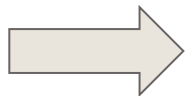
住民のQOL向上に繋がる



## ②スマートシティ戦略の実践例(大阪府池田市)

デメリット✖(12月16日:春山さんによる電話取材を元に)

- ・専用アプリを開発してタブレット上で行う。
  - 利用者の大半は70歳以上なので使いづらい。
- ・財源が国交省の補助金であるにも関わらず、市や市長の参画が弱い(援護射撃がない)
- ・新システムのブラックボックス化の可能性



完全なスマートシティ化の実現✖



# ＋α 取材を通して...

---

新たに浮上した課題

➡ 現地の方によると、やはり地域の高齢化が顕著である。

高齢者への最先端医療制度（IoT×医療）  
の整備が必要なのは？

# ＋α 取材を通して...

---

IoT × 医療はまだまだ途上段階。

- 大阪が先導して、普及させていく。
- 国内外に技術力をアピールし、地位の向上。
  
- 副首都化への一歩前進。



# ③副首都化との関連性

---

①大阪府の本店流出

➡ エコシステムの導入によって、新たな企業創出を支援！

②大阪の強みであったインバウンド需要の激減

➡ ICTや医療など新分野に取り組むことでインバウンドの代替！

 副首都化に繋がる！ + 副首都・大阪としてのイメージ定着！

# 目次

1:提案

2:副首都化のネガティブ要素

3:副首都化のポジティブ要素

4:スマートシティ構想

1:スマートシティ化の内容

2:スマートシティの実践例(池田市)

3:副首都化との関連性

5:展望と予想

# 展望と予想

---

- ・スマートシティ開発が世界的に展開

  - 世界的に遅れていることから日本が力を入れる可能性

- ・万博開催により世界的な注目は得られる

  - 都市自体に目を向けられる機会

大阪スマートシティ戦略のいち早い実装により、大阪という都市をアピール

日本＝東京というイメージも払拭できるのでは

副首都・大阪というイメージの定着と認知度の向上